令和2年8月26日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院リハビリテーション科学研究科長 泉 唯史 殿

主査 青木光広 印

副査 高橋尚明 印

副査 野坂利也 印

副査 小島 悟 印

このたびリハビリテーション科学研究科博士後期課程　生体構造機能・病態解析学分野
17Z001 河治勇人にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1　学位論文題目 歩行立脚初期の膝関節矢状面動態変化が膝関節負荷に及ぼす影響

2　論文要旨　　別添

3　学位論文審査の要旨

令和2年5月15日の博士論文提出の後、主査並びに副査3名が論文を慎重に査読した。副査より論文構成の不備が指摘され、予備実験内容の削除と方法論・図表の大幅な追加・修正が行われた。また、臨床応用に関する記載の不足が指摘され、研究内容に沿った形での臨床応用の展望について記載が追加された。主査より、結果に基づいた考察の記載や臨床症例に対する適用に関して、過剰な表現が指摘されすべて削除された。その結果、一次査読で指摘された点について修正がおこなわれ、博士論文として相応しい内容となった。7月13日に修正博士論文と新旧対照表が提出された。再提出論文に対して二次査読が行われ、細かい表現についての修正点が指摘された。

4　最終試験の要旨

令和2年8月7日、口頭試問・公開討論会が行われ、副査より義足歩行の際の歩行解析の立場より疑問点が指摘され、今回の解析結果の解釈について審議された。また、今回の実験条件の中で各々の条件が想定する臨床状況について審議された。本報告は変形性膝関節症の歩行立脚初期状況をパターン化して再現し、正常人で矢状面での膝関節動態変化を観察した数少ない報告であり、理学療法を行う際に重要な知識を提供している。これまでの審議内容に基づく修正が行われ、令和2年8月24日、最終博士論文が提出された。本論文は方法論等に新規性があり、博士の学位に相応しい内容と評価された。

以上の結果、河治勇人は博士（リハビリテーション科学）の学位を授与する資格のあるものと判定する。